

在日中国人留学生の異文化適応過程に関する研究 —対人行動上の困難の観点から—

湯 玉 梅*

第1章 問題の設定と目的

近年、各方面で国際化や国際交流が進められている中で、国際社会における日本の役割が問われつつある。これは政治や経済の分野のみではなく、教育においても重要な課題である。日本政府は1983年、留学生の受け入れ数を21世紀初頭10万人に増やす方針を打ち出している。その方針を受け、留学生は大幅に増えた。法務省入国管理局の統計資料によれば、在日留学生の数は1983年末に10,428人だったのに対して、1998年末に51,298人になり、2003年4月には110,415人と急増している。1998年までは、15年経て在日留学生の数は5倍しか増えていなかったが、ここ5年間で急増し、さらに1998年の倍になった。「留学生10万人構想」は現時点に至ってはすでに実現した。留学生数急増に伴い、在日外国人留学生の適応問題が注目されるようになってきた。

母国から初めて異国を訪れると、母国内ではふだん経験しない驚き、戸惑い、不安などの体験を数多くする。そのようなカルチャー・ショックをはじめ、ホームシックやストレスなど留学生の抱える問題に関する研究では、対人関係に関わる問題がストレスの上位にくることが指摘されている。さらに、異文化間の対人関係形成の困難の原因は、ホスト国言語能力の欠如やホスト国に関する社会知識不足と指摘されてきた。し

* 人間科学コース博士前期課程2004年3月修了

かし、そこで問題として見えてきたのは、対人関係を結ぶのに、最も基本的で重要な心理的な要因—留学生のホスト側の人々に対する対人志向性—が考慮されていない点である。また異文化間の対人関係形成の困難を研究する際、パーソナリティや、母国にいた時の（対人関係の形成・維持・発展に必要な）ソーシャル・スキルなど個人要因も考えなければならない。

先行研究では、特定の文化圏の人々に関する研究は多くない。留学生の文化背景、生育環境、受けてきた教育などによって、彼らの要求や日本の生活で遭遇する問題が異なることは十分予想できる。研究対象をある特定の文化圏あるいは出身国・地域の留学生集団に限定することが必要とされている。

在日外国人留学生の出身国・地域に注目すると、2003年5月時点、在日留学生の総数は110,415人で、そのうち中国人留学生が73,795人で67%に達している（文部省教育局留学生課、2003年）。したがって中国人留学生を研究対象とすれば、在日外国人留学生の7割弱を分析することになる。

また、この数年、インターネットや携帯電話は急速な普及をみせている。このようなコミュニケーション手段の利用によって、従来の異文化適応過程も変わってくると考えられる。しかし、今のところ、インターネットや携帯電話の利用を考慮した研究はまだなされていない。

以上を踏まえて、さらに田中（2001）の異文化環境における良好な対人関係はソーシャルサポートを得る源になり、異文化適応を促進するという指摘を受け、本研究では、在日中国人留学生を対象に、対人関係形成の困難が複数な要因と関わっていることと、電子メディアを含めたコミュニケーションメディアの利用が異文化適応に影響を及ぼすという視点から、在日留学生の異文化適応を検証する。

本研究の目的は、第一に、在日中国人留学生のデモグラフィック属性を把握し、在日中国人留学生の異文化適応状況の規定要因を明らかにする。適応状況の規定要因については、性別、滞在期間、日本語能力のような個人属性を検討する。

第二に、電子メディアを含めたコミュニケーション行動が異文化適応に及ぼす影響を明らかにする。メールや電話などのコミュニケーションメディアは、どのような対人場面で（寂しいとき、助けを求めるときなど）、誰に対して使われているのであろうか。それは、異文化適応にどのように影響を及ぼしているのだろうか。

第三に、在日留学生における対人関係の困難の次元を解明し、それらの次元と適応状況との因果関係を検討する。対人関係形成に関わる要因として、相手文化への理解、対人志向性、性格など複数の変数を取り上げ、対人関係形成の困難との関連を分析する。さらに、これらが適応状況とどういう因果関係にあるかを考察する。

第2章 方法

横浜市立大学に在籍する中国人留学生を対象に、質問紙調査を行った。それにさきだって、予備調査として、4名の中国人留学生（うち2名は学部生、2名は大学院生）に日本社会への適応状況に関する面接、横浜市立大学の教職員（1名は留学生課の職員、1名は学生相談室員）に留学生の相談内容に関するヒアリングを行った。この結果も参考に調査票を設計した。

第1節 手続き

授業や会合の場で配布し、その場ないし後日回収した。直接手渡しで

表1 回答者の構成

1 性別	男	25 (37.9%)	女	41 (62.1%)		
2 年齢	20歳未満	1 (1.5%)	20～24歳	13 (19.7%)	25～29歳	38 (57.6%)
	30～34歳	10 (15.2%)	35歳以上	4 (6.1%)		
3 学籍	学部生	36 (54.5%)	研究生	7 (10.6%)	修士課程	17 (25.8%)
	博士課程	6 (9.1%)				
4 専攻	文科系	56 (84.8%)	理科系	10 (15.2%)		
5 滞在期間	1年未満	0 (0.0%)	1～2年未満	1 (1.5%)	2～3年未満	15 (22.7%)
	3年以上	50 (75.8%)				
6 日本語学校	なし	6 (9.1%)	半年	4 (6.1%)	1年	9 (13.6%)
	1年半	33 (50.0%)	2年	14 (21.2%)		
7 日本語能力	初級	5 (7.6%)	中級	26 (39.4%)	上級	35 (53.0%)
8 住居：環境	大学の寮	0 (0.0%)	留学生の寮	4 (6.1%)	アパート	36 (54.5%)
	貸間	10 (15.2%)	留学生会館	8 (12.1%)	公営	6 (9.1%)
	その他	2 (3.0%)				
誰と住むか	一人	36 (54.5%)	家族と	14 (21.2%)	他の外国人	12 (18.2%)
	日本人と	3 (4.5%)				
9 家賃 (円)	最小値	4000	最大値	105000		
	平均	41938	標準偏差	20848		
10 奨学金	なし	39 (59.1%)	ある	27 (40.9%)		
11 アルバイト 日数(週に)	なし	10 (15.2%)	ある	56 (84.8%)		
	平均	3.73	標準偏差	1.213		

きない対象者のみ郵送で調査票を送った。実施期間は2003年10月8日～11月8日である。

調査の依頼にあたっては、この調査が在日中国人留学生の実態とニーズを把握し、将来的に中国人留学生受け入れ体制に反映させるよう目指していることを明記し、協力を求めた。

第2節 調査対象者

調査の対象者は横浜市立大学に在籍する中国人留学生全員（91名）である。回答は67名からあり、記入漏れの1票を除く66票が有効回答である（有効回答率は73%）。

表2 回答者の構成と横浜市立大学の中国人留学生の構成

		回答者	留学生全体	χ^2
性別	男性	25(37.9%)	36(40%)	$\chi^2 = .124$ 確率 = .725
	女性	41(62.1%)	55(60%)	
専攻	文科系	56(84.8%)	72(80%)	$\chi^2 = .97$ 確率 = .325
	理科系	10(15.2%)	19(20%)	

回答者の属性は表1に示す通りである。性別は男性が37.9%、女性が62.1%。年齢は20歳以下が1.5%、20～24歳が19.7%、25～29歳が57.6%、30～34歳が15.2%、35歳以上が6.1%であった。

学籍は、博士課程が9.1%、修士課程が25.8%、学部生が54.5%、研究生が10.6%であった。専攻は文科系が84.8%、理科系が15.2%であった。

横浜市立大学に在籍する中国人留学生91人の構成は、男性が36人(40%)、女性が55人(60%)である。専攻は、理科系が19人(20%)、文科系が72人(80%)である。その構成から見ると、表2に示すように、今回の調査対象者の構成は、横浜市立大学の中国人留学生の構成をよく反映している。

第3節 調査内容

質問項目は以下のカテゴリーからなる。実際に使用した調査票は資料として掲載した。

1. デモグラフィック属性

性別、年齢、学籍、専攻、滞在期間、日本語学校の通学期間、日本語能力、住居、家賃、奨学金、アルバイト。なお日本語能力は自己評価を用いた。

2. 適応状況

(1) 異文化適応度

留学生の異文化適応の指標として、上原（1992）が作成した日本の留学生用適応尺度を参考に①学習・研究、②心身の健康、③対人関係、④住居・経済、⑤文化の5つの領域から作成した。回答は①当てはまらない～④当てはまる、の4件法とした。

(2) 主観的幸福感

主観的幸福感の指標として、伊藤ら（2003）が作成した成人用の主観的幸福感尺度を採用した。この尺度は、対象は青年（大学生）から成人までの幅広い範囲に適用でき、信頼性、妥当性も十分である。回答は4件法である。

3. 対人関係

(1) 友達付き合いに関する質問と対人ストレス

友達付き合いに関する項目と対人ストレス評定項目は、田中（2001）の留学生における対人志向性尺度とストレス評定尺度から、次元性が保証されたものを用い、さらに、予備調査から得た知見をもとに独自の項目を加えた。

(2) ソーシャル・スキル

ソーシャル・スキルは、菊池（1988）の社会的スキル尺度 KISS-18 を採用した。回答は、「いつもそうだ」～「いつもそうでない」の5件法である。

4. コミュニケーション行動（場面とメディア）

留学生の異文化適応過程において、「寂しい時」「悩みがある時」「助けを求める時」「連絡のため」の4つの対人場面を設定し、それぞれの

場面で、コミュニケーション手段と相手について尋ねた。コミュニケーション手段の選択肢は、インターネットや携帯電話の利用を考慮し、「電話」「メール」「直接に会う」「手紙」と設定した。コミュニケーション相手に関する選択肢は、在日留学生が日本で接触頻度の高い人に関する調査結果（田中，2001）を参考に、「日本人の知人・友人」「市大の中国人留学生」「他大学の中国人留学生」「母国にいる知人・友人」「母国にいる家族」「市大の先生・指導教員」と設定した。

5. その他

大学へのセミナー開催の希望や調査票の理解度などを設定した。

第4節 尺度の構成

本研究は、留学生の対人関係形成の困難について、異文化理解、性格など、さまざまな要因と関連している視点から捉えるため、それらに関する尺度を新たに作成した。異文化適応状況を評定する指標については、中国人留学生の受け入れとその特色を考慮した上で、在日中国人留學生用の異文化適応尺度を作成した。ここでは、それらの独自に作成した尺度を検討していきたい。

1. 対人志向性尺度と積極性尺度

友達付き合いに関する項目は、田中（2001）の留学生における対人志向性尺度から次元性が保証されたものを用いた上に、独自の項目を入れて6項目にした（調査票の第13問）。それについて因子分析（主因子法）を行った。その結果、固有値1以上のものが2因子であった。因子負荷量0.4未満の1項目を削除し、5項目で再計算を行った。2因子のうち1因子は、「日本人の友人がほしい」のように日本人に対する対人志

向性に関する項目が集約され、「対人志向性」($\alpha = .61$)と命名された。もう一つの因子は、「人と一緒にいるのが好きか、一人でマイペースにするのが好きか」のように性格に関する項目が集約され、「積極性」($\alpha = .64$)と命名された。

2. 異文化理解尺度

異文化理解を評定する項目は、日本の文化を表す生活習慣、礼儀などに関する質問から作成された4項目である(調査票の第14問)。それについて項目の信頼性の検定を行った。その結果、共通性が低い1項目を削除し、3項目で再び項目の信頼性を検定した。この尺度は、例えば「日本人の挨拶や礼儀が(よくわかる～あまりわからない)」のように日本の文化や習慣に関する項目が集約され、信頼性係数 $\alpha = .71$ と、一定の信頼性が認められた。

3. 対人ストレス尺度

対人関係形成の困難の指標としている対人ストレス評定項目は、田中(2001)の留学生におけるストレス評定尺度から対人関係に関するストレスのうち次元性が保証されたものを用いた。さらに、予備調査から得た知見にもとづく項目を加え、計8項目である(調査票の第15問)。8項目についての信頼性を検定したところ、信頼性係数 $\alpha = .81$ と、一定の信頼性が認められた。この尺度は、例えば「日本人学生と親しい人間関係を作ることの難しさ」のように対人関係の形成に関する項目が集約されている。

4. 在日中国人留学生用の異文化適応尺度

異文化適応の指標として、上原(1992)が作成した日本の留学生用適

応尺度を参考に、中国人留学生の受け入れとその特色を考慮した上で、①学習・研究、②心身の健康、③対人関係、④住居・経済、⑤文化の5つの領域から作成した（調査票の第12問）。具体的な項目としては、「学習・研究」領域では、例えば「大学での研究や勉強を続けていく自信がない」。「心身の健康」領域では、例えば「感情の変化が激しい」。「対人関係」領域、例えば「大学に何でも話せる日本人学生の友人がいない」。「住居・経済領域」では、例えば「現在、住んでいるところの治安状態はかなり悪い」。「文化」領域では、例えば「日本人の特性・日本社会の特性があまり理解できていない」のような項目20項目からなる。それらの項目について、信頼性検定を行った。その結果、信頼性係数は $\alpha = .81$ と高く、一定の信頼性が認められた。

第5節 分析の枠組み

分析と枠組みはつぎのように設定した。

- (a) 回答者を適応度の高低で2群に分け、他の項目との関連を検討する。
- (b) コミュニケーション行動については生起頻度を集計し、全体を概観する。そして対人場面ごとにコミュニケーション行動を検討する。最後に、コミュニケーション行動と適応状況との関連について分析する。
- (c) 共分散構造分析により、対人関係形成の困難の原因およびそれらと適応状況の関連を総合的に分析する。

仮説とする因果モデルは、図1に示すように、個人要因（滞在期間、アルバイト、性別、積極性）→適応能力（異文化理解、日本語能力、過去（来日前）のソーシャル・スキル（SS）、対人志向性）→現在のソーシャル・スキル→対人ストレス→適応状況（適応度、来日満足度、幸福感）、という流れであり、前段階の変数が次段階の変数に影響を与える

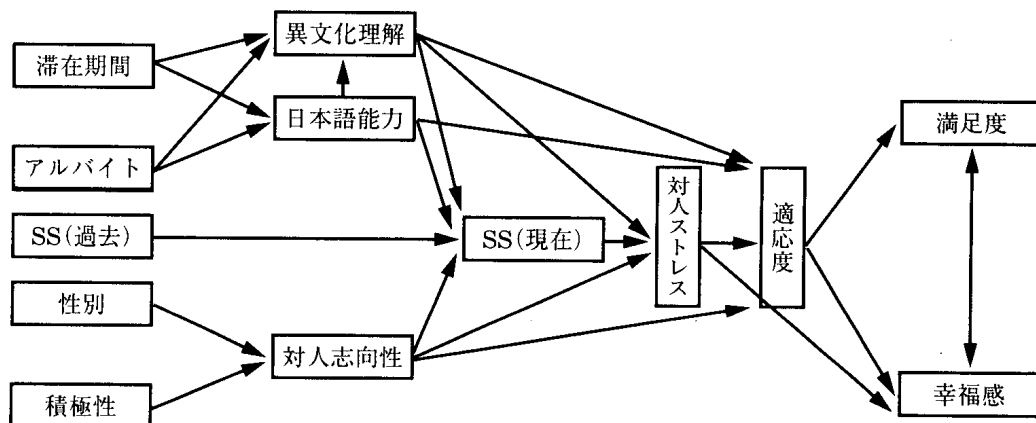


図1 異文化適応に関する仮説因果モデル

パスを仮定し、仮説因果モデルを検討する。

第3章 結果

第1節 中国人留学生のデモグラフィック属性と異文化適応状況の規定要因

1. デモグラフィック属性

回答者のデモグラフィック属性の結果は、前述したように（表1）、性別では女性が男性より多く6割を占めている。年齢では、20代後半が最も多く5割以上を示している。それに30代以上を加えると8割近い。

滞在期間では2年未満は1人しかいなかった。3年以上が7割以上を占める。日本の日本語学校に通っていた期間では、1年半通っていた人が最も多く50%を占めている。次いで2年間通っていた人が多く、2割いる。1年半通っていた人と2年通っていた人を合わせると、7割を越す。

日本語能力では、初級（日常会話にまだ困難を感じる）、中級（日常

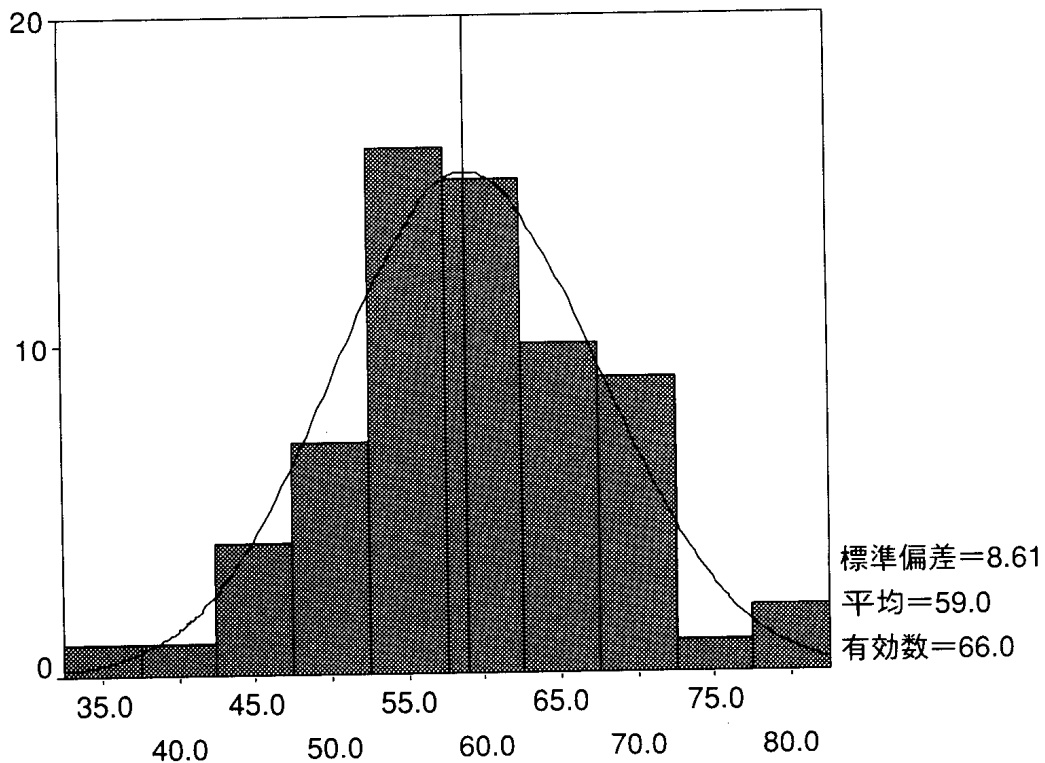


図2 適応度の度数分布

会話なら問題ない), 上級 (ほぼ十分ついていける) に対して, 自己評定を行った結果, 半数以上が上級に属している。次いで4割が中級に属している。

住居環境では, アパートに住んでいる人は半数以上を占めている。そして「誰と住んでいるか」では一人暮らしが5割以上を占めている。家賃では, 平均41,938円, 標準偏差20,848円である。要するに, 7割の回答者は家賃が2万円~6万円の場所に住んでいることになる。

奨学金を受けている人は4割いる。アルバイトをしている人は8割以上いる。アルバイトをしている日数は, 平均3.73日, 標準偏差1.21日である。つまり, 今回の調査結果によると, 8割以上の中国人留学生は, アルバイトをしており, そのうち, 7割の人は週に2.5~5日間アルバイトをしている。

表3 適応状況と他の項目との関連

	適応度				t 検定	備考
	高い群 (N = 31)		低い群 (N = 35)			
	平均	SD	平均	SD		
年齢	3.03	0.87	3.05	0.76	0.12	1:~20歳 2:20~24歳 3:25~29歳 4:30~34歳 5:35歳~
学籍	1.97	1.05	1.83	1.12	-0.52	1:学部生 2:研究生 3:大学院修士課程 4:大学博士課程
滞在期間	3.65	0.55	3.83	0.38	1.59	1:~1年 2:1~2年 3:2~3年 3:3年~
日本語学校の 通学期間	3.58	1.29	3.77	1.03	0.67	1:なし 2:半年 3:1年 4:1年半 5:2年
日本語能力	2.65	0.49	2.28	0.71	-2.42*	1:初級 2:中級 3:上級
家賃 (円)	40,000	20,121	43,706	21,636	0.71	金額
対人志向性	2.97	0.81	2.83	0.79	-0.70	2項目 1~4点
異文化理解	6.58	1.03	6.14	0.94	-1.81	3項目 1~9点
対人ストレス	22.39	5.72	26.57	2.69	2.97**	8項目 1~40点
中国にいた時の ソーシャル・スキル	64.70	8.9	64.31	6.55	-0.21	18項目
現在の ソーシャル・スキル	64.84	7.3	58.91	7.93	-3.14**	18項目
幸福感	36.68	4.28	33.6	3.72	-3.12**	12項目
満足度	82.23	12.45	74.17	16.23	-2.24**	

**p<.01 *p<.05

2. 文化適応度の規定要因

日本社会への適応状況を規定する要因を分析する際、まず回答者の適応度の得点の分布を検討する。回答者の適応度の得点の度数分布は、図2に示すように、平均が59、標準偏差が8.61であり、正規分布に近いと判断された。

次に適応度の得点で平均を境に適応度の高い群と低い群とに分け、分析した。その結果を表3に示す。

日本語能力（適応度の高い群の平均が2.65，適応度の低い群の平均が2.28, $t = -2.42$, $p < .05$), 対人ストレス（適応度の高い群の平均が22.39, 適応度の低い群の平均が26.57, $t = 2.97$, $p < .01$), 日本でのソーシャル・スキル（適応度の高い群の平均が64.84, 適応度の低い群の平均が58.91, $t = -3.14$, $p < .01$), 幸福感（適応度の高い群の平均が36.68, 適応度の低い群の平均が33.3, $t = -3.12$, $p < .01$), 満足度（適応度の高い群の平均が82.23, 適応度の低い群の平均が74.17, $t = -2.24$, $p < .01$)について有意差が見られた。そして，中国にいた時のソーシャル・スキルと日本でのソーシャル・スキルの平均差 ($t = -3.06$, $p < .01$) が，適応度の低い群では有意であったのに対し，適応度の高い群では有意ではなかった。そのほか，性別，年齢，学籍，専攻，滞在期間，日本語学校への通学期間，家賃，奨学金，アルバイトでは，平均の差が有意ではなかった。

第2節 対人コミュニケーション行動が異文化適応に及ぼす影響

留学生たちは，本国の家族や友人から離れて異文化圏に移動し，既存のネットワークに頼りながら，新しい対人ネットワークを作り上げて行く。本節では，異文化環境に適応していく過程において，そのような広がりつつあるネットワークの中で，メールや電話などのコミュニケーションメディアが異文化適応にどのように影響を及ぼしているのかについて検討する。

1. 対人場面とコミュニケーション相手

「寂しい時」「悩みがある時」「助けを求める時」「連絡のため」といった4つの対人場面で，母国にいる既存の対人ネットワークである「母国にいる家族」「母国にいる知人・友人」と，日本で作り上げた新しい対

人ネットワークである「日本人の知人・友人」「他大学の中国人留学生」「市大の中国人留学生」「市大の先生・指導教員」の中で、誰とコミュニケーションをするのか尋ねた。

その結果、寂しい時は、より多く母国の家族や友人に相談していた。一方、助けを求める時は、より多く日本にいる中国人留学生または日本人の友人に相談していた。これは、中国人留学生はまだ慣れていない日本で、精神上母国にいる家族や友人に頼っている。助けを求める時は、日本の中国人留学生や日本人の友人に相談するのがより現実であると考えられる。

2. コミュニケーションの相手と手段

「寂しい時」「悩みがある時」「助けを求める時」「連絡のため」の4種類の対人場面で、「母国にいる家族」「母国にいる知人・友人」「日本人の知人・友人」「他大学の中国人留学生」「市大の中国人留学生」「市大の先生・指導教員」に対して、どのようなコミュニケーション手段を用いているのか尋ねた。対象者は、「電話」「メール」「会う」「手紙」「しない」の中から最大2つまで選んでもらった。

その結果、どの対人場面でも、手紙がほぼ母国にいる人だけに対して、少数の人に使われており、電話が母国の家族に対し最も多く使われていた。「先生・指導教員」に対しては、いずれの対人場面でも、相談相手として選ばれていなかった。母国にいる人や日本にいる中国人留学生に対しては、メールより電話のほうが多く使われていた。寂しい時だけ、メールが半数以上の人に、母国にいる知人・友人に対して使われていた。母国にいる家族に対して主に電話を使うのは、中国ではインターネットの利用が年配の人まで普及していないと考えられる。「日本人の知人・友人」と「先生」に対して、電話よりメールを多く使っているのは、書

き直すことができるというメールの特徴が、言葉の不自由な留学生に利用されていると思われる。

3. コミュニケーション行動と適応度

コミュニケーション行動は異文化適応にどのように影響を及ぼすのだろうか。「適応度の高い群」と「適応度の低い群」におけるコミュニケーション行動の特徴を、「寂しい時」「悩みがある時」「助けを求める時」それぞれの対人場面で、コレスポネンス分析を行なった。

分析した結果、コミュニケーション行動が適応状況によって異なることが明らかになった。適応状況の良い人は、寂しい時、悩みがある時、助けを求める時、いずれの対人場面でもより幅広い対人ネットワークの人と、多様なコミュニケーション手段で相談していた。

第3節 対人関係形成の困難の原因およびそれらと適応状況の関連

ホストとの対人関係形成の困難が、留学生のストレスの上位にくることが、先行研究から明らかになっている。今回の調査結果では、中国人留学生も日本人との付き合いが少ないか、またほとんどないことが示された。一体、ホストとの異文化間の対人関係形成の困難は、どういう要因と関わっているのか。また、それらは適応状況とどのような関連があるのか。それらを解明するために、本節では、対人関係形成の困難の原因およびそれらと適応状況の因果関係について、共分散構造分析 (AMOS) を用いて検討する。

仮説因果モデル (図2) にのっとり、共分散構造分析を反復試行し、その試行結果にもとづいて、要因や観測変数、パス経路を組み換えて得られた結果から最適解と認められるモデルに到達した。その結果を図3に示す。データとモデルの適合度については、 $\chi^2 (51) = 60.94$, GFI

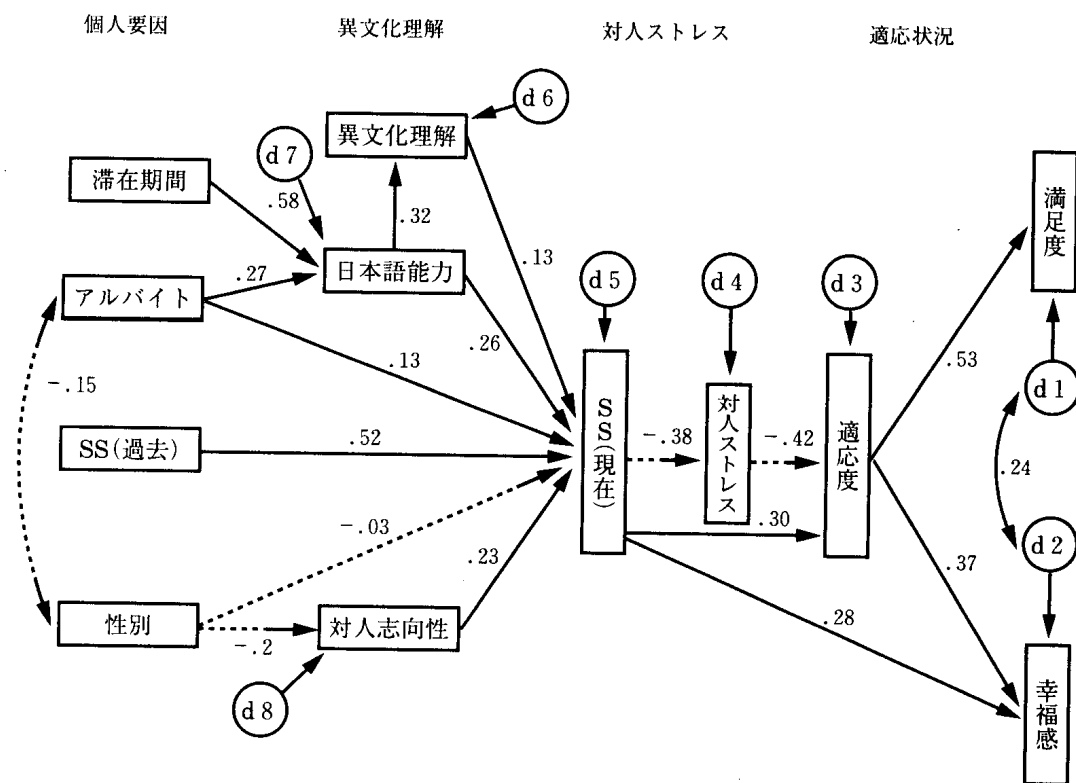


図3 分析結果とした因果モデル
(GFI=0.87, AMSEA=0.05)

=0.87, AMSEA=0.05で, GFI の値がやや低いが, 採用には耐えうると判断した。

図3に見る通り, 「滞在期間」の長さも「アルバイト」経験も, 「日本語能力」を高める働きをしているが, 「滞在期間」の長さの方が「日本語能力」を高める効果が大きかった。「性別」については, 男性のほうが「対人志向性」が高かった。現在のソーシャル・スキル「SS (現在)」への影響については, 直接効果を見ると, 最も大きいのは「SS (過去)」であった。次に, 「日本語能力」「対人志向性」「異文化理解」「アルバイト」「性別」の順に, 影響が大きかった。「性別」の回帰変数は0に近いので割愛する。間接効果では「日本語能力」の高さが「異文化理解」を高め, そして「SS (現在)」に間接影響を与えている。その他, 個人要因である「滞在期間」の長さも「アルバイト」経験が「日本語能力」を

高め、「SS（現在）」に間接影響を与えていた。「性別」により「対人志向性」が変わり、「SS（現在）」に間接影響も与えていた。さらに、「SS（現在）」が高いほど「対人ストレス」を感じにくく、「適応度」が高かった。その際、「適応度」が高いほど、日本への留学に対する「満足度」も高く、「幸福感」も高かった。なお、「SS（現在）」が直接「適応度」と「幸福感」に影響を与えていた。

第4章 考察と今後の課題

第1節 考察

本研究では、在日中国人留学生を対象に、日本という異文化環境での適応に対する、コミュニケーション手段の利用とその影響、および対人関係形成の困難の原因とそれらの効果に関して検討を行った。ここで、これまでの結果を整理したい。

1. 中国人留学生のデモグラフィック属性と異文化適応の規定要因

中国人留学生の特徴を概観するため、デモグラフィック属性および異文化適応状況の規定要因について検討した。その結果、9割の中国人留学生は日本で日本語学校に通っていた。中国人留学生の日本での滞在期間は、2年未満の人は1人しかいなかったのに対し、2～3年の人は22.7%、3年以上の人は75.8%であった。また、日本語能力については、半数以上の人が高レベルと評価していた。そして、日本語能力、対人ストレス、現在のソーシャル・スキル、幸福感、満足度と適応度との間に有意差がみられたが、性別、年齢、学籍、専攻、滞在期間、日本語学校の通学期間、家賃、奨学金、アルバイトは有意差が見られなかった。適応度の低い群では、中国にいた時のソーシャル・スキルと日本でのソー

シャル・スキルとの間に有意な差がみられた。

本研究では、日本社会への適応状況の規定要因について、日本語能力、日本でのソーシャル・スキル、対人ストレス、幸福度、満足度が適応状況と有意差がみられた。前二者は、田中（2001）の結果とも一致している。

母集団となる日本の大学に在籍している中国人留学生のデータがないため、母集団に対する調査対象者の代表性は論じ難いが、今回の回答者は、横浜市立大学に在籍している中国人留学生の構成をよく反映していると判断された。今回の回答者の属性をみると、モイヤー（1987）が在日留学生全体に調査した結果と比べ、中国人留学生のほうが滞在期間は長く、日本語能力も高い。周（1995b）は留学生の異文化適応状況が変化する3時期は、来日3ヶ月、9ヶ月、1年9ヶ月であると指摘したが、今回の中国人留学生の留学経緯をみると、7割の人が来日後1年半以上日本語学校に通った後、大学に入学している。

以上の知見から、留学生の異文化適応研究を行う際、中国人留学生の属性に留意しなければならないこと、異文化適応の研究では留学生の属性別の検討が必要であることが示唆された。

2. 対人コミュニケーション行動が異文化適応に及ぼす影響

適応過程における対人場面で、中国人留学生のコミュニケーション行動を把握するため、インターネットを含むコミュニケーション手段の利用による対人行動が異文化適応に及ぼす影響について検討した。その結果、相談相手については、寂しい時、より多く母国の家族や友人に相談することに対して、助けを求める時、より日本の対人ネットワークの人に相談していた。また、いずれの対人場面でも、先生・指導教員に相談する人は最も少なかったことが示された。コミュニケーション手段の利

用については、相談相手によって異なることが示された。コミュニケーション行動が適応状況に及ぼす影響については、より適応している人は、いずれの対人場面でも、より幅広い対人ネットワークと、多様なコミュニケーション手段で相談していることが示唆された。

3. 対人関係形成の困難の原因および適応状況との関連

最後に、対人関係形成の困難の原因およびそれらと適応状況の関連について分析を行った。その結果、現在のソーシャル・スキルが適応を促進する。また、現在のソーシャル・スキルの高さは対人関係形成の際に感じるストレスを低減し、適応を促進することが示唆された。また、個人要因である性別、滞在期間、アルバイト、母国にいた時のソーシャル・スキル、そして適応能力である異文化理解、日本語能力、対人志向性は、適応促進と直接的な関わりをもたなかった。対人関係形成の困難の原因は、日本でのソーシャル・スキルの欠損で、母国にいた時のソーシャル・スキル、語学の能力、対人志向性、異文化理解、アルバイトとかがかかわっていることが解明された。

適応促進の効果については、日本でのソーシャル・スキルの向上が適応を促進するという結果は、田中（2001）の結果とよく一致している。対人関係形成の困難の原因については、田中（2001）が、ソーシャル・スキルの欠損で異文化性の認識欠如を強調したが、今回の分析結果は、対人ストレスの規定要因は日本でのソーシャル・スキルの欠損で、異文化理解、日本語能力、アルバイト、過去のソーシャル・スキル、対人志向性と関連していることが示された。さらに、予備調査で行った4名の事例分析から、異文化圏で必要なソーシャル・スキルは、母国に滞在時のソーシャル・スキルのほか、異文化性の要因によるものが要求されていることが示唆された。日本人に対する対人志向性は、留学生の問題だ

けではなく、日本人の受け入れ状況に左右されることが示された。

今回、適応度の低い群は、日本でのソーシャル・スキルの得点が中国にいた時より下がっていることが明らかにされた。対人関係上のソーシャル・スキルには、文化一般的な要素と、文化特定の要素が考えられる。後者は、挨拶の仕方やお礼の言い方などの人づきあいの仕方をはじめ、文脈に即した相手の行動の解釈、とるべき行動に対する適切な認識など行動の方法と考え方に反映される。異文化圏では、文化特定の要素が欠損しており、それを十分獲得していないうちは、社会的な有能性も発揮できずに困難を感じると考えられる。

しかし、対人関係を成立させ、維持し、発展させるための行動様式の総体を対人コミュニケーションに役立つ方法としてとらえ、それを社会的技能（ソーシャル・スキル）と定義すれば、文化的な要素を含むスキルは観察学習が可能とみなすことができる。今回の結果とつなげると、日本でのソーシャル・スキルを高める方法として、適応能力を身に付けることが考えられる。つまり、今回の結果をみる限り、留学生が異文化環境での対人関係形成に抱えている困難を解決するには、語学力を高め、ホスト国の行動様式への認識を深めるほかに、とりわけホスト国の人々に対する対人志向性をポジティブな方向へ導くことが重要である。また、より幅広い対人ネットワークと、多様なコミュニケーション手段を利用することも有効な手だてと言える。

第2節 今後の課題

今回の研究は1つの学校の中国人留学生に制限したため、結果の一般性に疑問が残る。特に公立大学と私立大学とでは、学費の差が大きく、留学生の生活基盤となる経済状況が変わると、適応過程も変わると推測される。また、今回の調査では留学生の側にしかたずねなかった。しか

し人間関係の形成過程は、相互的なものであり、ホスト側にも調査を行い、対人関係形成の困難に関する認識のずれを検討する必要がある。さらに、留学生の対人関係についての理解をさらに深めていくためには、縦断的視野に立った質的、量的研究の積み重ねが欠かせない。もちろん、普及の著しいインターネットや携帯電話などのコミュニケーションメディアがどのように活用されているかを調べることも期待される。

引用文献

- Altbach, P. G., Kerry, D. H., & Lulat, YG-M. 1985 *Research on foreign students and international study: An overview and bibliography*. New York : Praeger.
- 天野武男 1995 国士館大学における外国人留学生の生活実態調査 国士館大学教養論集, 40, 165 - 203.
- Anderson, L. E. 1994 A new look at an old construct : Cross-cultural adaptation. *International Journal of Intercultural Relations*, 18, 293 - 328.
- Baker, W. R., McNeil, O. V., & Siryk, B. 1985 Expectation and reality in freshman adjustment to college. *Journal of Counseling Psychology*, 32, 94 - 103.
- Baker, R., & Siryk, B. 1986 Exploratory intervention with a scale measuring adjustment to college. *Journal of Counseling Psychology*, 33, 31 - 38.
- Bocher, S. 1972 Problems in cultural learning. In S. Bochner & P. Wicks (Eds.) *Overseas students in Australia*. New South Wales, Australia : New South Wales University Press.
- Bocher, S., McLeod, B. M., & Lin, A. 1977 Friendship patterns of overseas students : A functional model. *International Journal of Psychology*, 12,

277 - 294.

Church, A. T. 1982 Sojourner adjustment. *Psychological Bulletin*, **91**, 540 - 572.

丁 謙 1994 中国人留学生の日本人観 ライフデザイン研究所

江淵一公 1994 異文化間教育学序説：移民・在留民の比較教育民族誌的分析 九州大学出版会

Furnham, A., & Bochner, S. 1986 *Culture Shock*. London : Methuen.

Furnham, A., & Erdmann, S. 1995 Psychological and socio-cultural variables as mediators of adjustment in cross-cultural transitions. *Psychologia : An International Journal of Psychology in the Orient*, **38**, 238 - 251.

Furnham, A., & Trezise, L. 1983 The mental health of foreign students. *Social Science & Medicine*, **17**, 365 - 370.

Hicks, J. E. 1988 Studies on the adjustment of foreign students in Japan : With focus on interpersonal relations. Doctoral dissertation, Faculty of Education, Hiroshima University.

伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至 2003 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 心理学研究, **74**, 276 - 281

岩男寿美子・萩原 滋 1977 在日留学生の対日イメージ(2) : SD プロフィールの検討 慶應義塾大学新聞研究所年報, **10**, 15 - 29

岩男寿美子・萩原 滋 1988 日本で学ぶ留学生：社会心理学的分析 勁草書房

Jou, Y. H., & Fukuda, H. 1995a Effects of social support on adjustment of Chinese Students in Japan. *The Journal of Social Psychology*, **135**, 39 - 47.

Jou, Y. H., & Fukuda, H. 1995b Effects of social support from various sources on the adjustment of Chinese students in Japan. *Journal of So-*

- cial Psychology*, **135**, 305 – 311.
- Jou, Y. H., & Fukuda, H. 1996 Comparison of differences in the association of social support and adjustment between Chinese and Japanese students in Japan : A research note. *Psychology Reports*, **79**, 107 – 112.
- 菊池章夫 1988 思いやりを科学する 川島書店
- Marion, P. 1986 Research on foreign students at college and universities in the United States. *New Directions for Student Services*, **36**, 65 – 82.
- モイヤー康子 1987 心理的ストレスの要因と対処の仕方：在日留学生の場合 異文化教育, **1**, 81 – 97.
- 周 玉慧 1995a ソーシャルサポートの効果に関する拡張マッチング仮説による検討：在日留学生を対象として 社会心理学生研究, **10**, 169 – 207.
- 周 玉慧 1995b 受け取ったサポートと適応に関する因果モデルの検討：在日中国系留学生を対象として 心理学研究, **66**, 33 – 40.
- Sykes, I., & Eden, D. 1987 Transitional stress, social support, and psychological strain. *Journal of Occupational Behavior*, **6**, 293 – 298.
- 高井次郎 1988 The adjustment of international students at a third-culture-like academic community in Japan. 埼玉大学教養学部修士論文
- 高井次郎 1989 在日外国人留学生の適応研究の総括 名古屋大学教育学部紀要, **36**, 139 – 147.
- 田中 宏 1990a 80年代における日本の留学生受け入れ政策と中国人留学生 季刊中国研究, **18**, 1 – 14.
- 田中共子 1993 「留学生」相談の領域 学生相談研究, **4**, 73 – 82.
- 田中共子 1995 在日外国人留学生による日本人との対人関係の困難に関する原因認知 学生相談研究, **16**, 23 – 31.
- 田中共子 1996 日本人チューターの異文化接触体験(2)：その役割と異文化交流に関する質問紙調査 広島大学留学生センター紀要, **7**, 84 – 108.

- 田中共子 2001 留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル
ナカニシヤ出版
- 田中共子・松尾 馨 1993 異文化欲求不満における反応類型と事例分析：
異文化間インターメディアーターの役割への示唆 広島大学留学生セン
ター紀要, 4, 81-100.
- 田中共子・田畑佳則 1991 外国人留学生の日本生活における問題：留学生
の動機及び満足度との関係 中西国教育学会・教育学研究紀要, 37, 364-
369.
- 田中共子・横田雅弘 1992 在日留学生の居住形態とストレス 学生相談研
究, 13, 51-59.
- 上原麻子 1988 留学生の異文化適応：言語習得及び異文化適応：理論的・
実践的研究（広島大学教育学部）
- 上原麻子 1992 外国人留学生の日本語上達と適応に関する基礎的研究 平
成2年度科学研究費補助金研究成果報告書（研究課題番号63510137）
- Ward, C., & Kennedy, A. 1994 Acculturation strategies, psychological ad-
justment, and sociocultural competence during cross-cultural transi-
tions. *International Journal of Intercultural Relations*, 18, 329-343.
- 薬 進 1990 在日中国人留学生の推移と現状 季刊中国研究, 18, 59-70.
- 山本和郎 1986 コミュニティ心理学：地域臨床の理論と実際 東京大学出
版会
- 山崎 誠 1996 留学生問題のいろいろ 日本の科学者, 94, 208-212.
- 姚 霞玲・松原達哉 1990 留学生のストレスに関する研究(1)：生活スト
レッサーを中心に 学生相談研究, 11, 1-11.
- Ying, Y., & Liese, L. H. 1994 Initial adjustment of Taiwanese students to
the United States : The impact of postarrival variables. *Journal of Cross
-Cultural Psychology*, 25, 466-477.

資料 調査票

中国人留学生の日本での生活経験に関する調査

留学生のわれわれは日本で様々なことに会っています。その中には、ストレスになるものもあるけれど、楽しいこともあります。この調査は、私の修士論文で中国人留学生の異文化適応を取り上げた問題にかかわるものです。つまり、中国人留学生にとって心身とも健康な生活を送りながら、学業達成することができるために、どうすればよいかを考える資料とさせていただきます。皆さんの回答はコンピューターで統計的に処理しますので、個人的にご迷惑をおかけすることは決してありません。率直なご意見をお聞かせください。回答用紙は2003年10月16日までに返信封筒でお送りください。どうかご協力をお願い致します。

なお、調査票の発送に当たって学務課の協力をいただきました。

2003年10月

横浜市立大学大学院国際文化研究科 川浦研究室

湯 玉梅

tym926@hotmail.com

1. 性別 ①男 ②女
2. 年齢 ①20歳未満 ②20～24歳 ③25～29歳 ④30～34 ⑤35歳以上
3. 学籍 ①学部生 ②研究生 ③大学院修士課程 ④大学院博士課程
⑤その他 ()
4. 専攻 ①文科系 ②理科系
5. あなたは日本に来て何年ですか。来日が2回以上にわたる人は、すべての期間を合計してください。
①1年未満 ②1年以上2年未満 ③2年以上3年未満
④3年以上

6. あなたが日本の日本語学校に通った期間はどのぐらいですか。

- ①なし ②半年 ③1年 ④1年半 ⑤2年

7. あなたの日本語力はどのレベルですか。

- ①日常会話にもまだ困難を感じる ②日常会話なら問題なし
③ほぼ十分についていける

8. あなたは、〈A〉どのようなところに、〈B〉誰と、住んでいますか。

〈A〉どのようなところに住んでいますか。

- ①大学の寮（日本人と一緒に）
②主に留学生が住むための大学以外の寮
③一般のアパート
④貸間（下宿：大屋さんの家の一部屋を借りている）
⑤留学生会館
⑥公営（県営）の住宅、会社の寮
⑦それ以外

〈B〉誰かと一緒に住んでいますか。

- ①一人で ②家族と ③他の外国人と ④日本人と

9. 家賃（一ヶ月）（ ）万（ ）千円

10. 奨学金

- ①無 ②有（月約 万円）

11. アルバイト

- ①無 ②有（週に 日）

最近のあなたの生活状態についてお尋ねします。

12. 最近のあなたの生活状態についてお尋ねします。

下にあげた状態はあなたにどのくらい当てはまりますか？

最もよく当てはまると思う数字に○をつけて教えてください。

- | | 当てはまらない | どちらかと言え
ば当てはまらない | 少し当てはまる | 当てはまる |
|--|---------|---------------------|---------|-------|
| (1) 何となく不安になることがある …………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (2) 大学での研究や勉強を続けていく能力に自信がない
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (3) 日本人の挨拶や礼儀がわからなくて困ることがよくある
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (4) 学科の先生たち（教授，講師，助手）に気軽に話しかけることができない
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (5) 日本人の特性・日本社会の特性があまり理解できていない
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (6) 寂しくなることがよくある …………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (7) この大学での勉強や研究が楽しくない …… | ① | ② | ③ | ④ |
| (8) 自分が外国人で目立つので，自分の行動が制限されるように感じる
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (9) 大学の事務の職員たちに気軽に話しかけることができない
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (10) 日本人の婉曲的（間接的）な表現が理解できないことがよくある
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (11) 感情の変化が激しい …………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (12) 自分の専門分野の授業で，日本語で研究発表をしたり，
討論したりすることがうまくできない
…………… | ① | ② | ③ | ④ |
| (13) 何でも話せる留学生の友達がない …… | ① | ② | ③ | ④ |

- (14) 現在の住まいの住み心地は悪くて満足していない
 ① ② ③ ④
- (15) よくホームシックにかかる ① ② ③ ④
- (16) 勉強する気があまりしない ① ② ③ ④
- (17) 大学に何でも話せる日本人学生の友人がいない
 ① ② ③ ④
- (18) 日本の食べ物が口に合わなくて困ることがよくある
 ① ② ③ ④
- (19) 現在、住んでいるところの治安状態はかなり悪い
 ① ② ③ ④
- (20) 経済的にとても困っている ① ② ③ ④

13. あなたの友達づきあいはどうですか、

最もよく当てはまるもの1つに○をつけてください。

- (1) 私はどちらかというと ①人と一緒にいるほうが好きだ
 ②一人でマイペースにしているほうが好きだ
- (2) 私はどちらかというと ①家で静かにしているほうが好きだ
 ②外に出て活動するほうが好きだ
- (3) 私は本国では友人が ①かなり多いほう
 ②どちらかというと少ないほう
- (4) 私は日本人の友人を ①できるだけ多くほしい
 ②そんなにほしいとは思わない
- (5) 私は日本人と一緒に集団活動（飲み会、スポーツ、サークルなど）に
 ①できるだけ参加しようと思う
 ②あまり参加したいと思わない

(6) 私は日本人の友人・知人を遊びや食事などに

- ①誘うことが多い ②あまり誘わない

14. あなたは、以下の項目について最も当てはまる答えに○をつけてください。

(1) 私は日本人の挨拶や礼儀が

- ① よくわかる ② ある程度わかる
③ あまりわからない

(2) 私は社会のマナーやルールを

- ① よく守っている ② たまに守らないこともある
③ あまり守らないほう

(3) 私は日本人の生活習慣が

- ① よくわかる ② ある程度わかる
③ あまりわからない

(4) 私は全体として日本人の生活や考え方を

- ① よく理解しているほう ② ある程度理解している
③ ほとんど理解していない

15. 現在のあなたにとって、次のような事柄は

どの程度ストレスに感じられていますか。

非常に感じる

かなり感じる

やや感じる

あまり感じない

まったく感じない

(1) 日本人の曖昧ではっきりしない表現の、本当の意味を理解すること

- ① ② ③ ④ ⑤

- (2) 日本人に質問したり，話題に参加しようとしても無視される
 ① ② ③ ④ ⑤
- (3) 日本人学生と親しい人間関係をつくることの難しさ
 ① ② ③ ④ ⑤
- (4) 外国人だということで特別視されること ... ① ② ③ ④ ⑤
- (5) 礼儀が多くて，いつも「すみません」「ありがとう」などと口にする事
 ① ② ③ ④ ⑤
- (6) 割り勘の習慣 ① ② ③ ④ ⑤
- (7) 日本人のまじめさ ① ② ③ ④ ⑤
- (8) 日本人の冷たい対人態度 ① ② ③ ④ ⑤

16. 以下の文章を読んで，自分にどれだけ当てはまるか，教えてください
最もよく当てはまると思う数字に○をつけてください。

- | | 現在 | | | | | 中国にいた時 | | | | |
|---|------------|-----------|-------------------|-----------------|------------------|----------------|---------------|-------------------|-----------------|------------------|
| | いつも
そうだ | 大抵
そうだ | どちら
とも言
えない | 大抵
そう
でない | いつも
そう
でない | いつも
そう
だ | 大抵
そう
だ | どちら
とも言
えない | 大抵
そう
でない | いつも
そう
でない |
| (1) 他人と話していて，あまり会話が途切れない方ですか
..... ① ② ③ ④ ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| (2) 他人にやってもらいたいことを，うまく指示することができますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| (3) 他人を助けることを，上手にやれますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| (4) 相手が怒っている時に，うまく慰めることができますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

- (5) 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (6) 周りの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (7) 怖さや恐ろしさを感じた時に、上手に和解できますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (8) 気まずい事があった相手と、上手に和解できますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (9) 仕事をするときに、何をどうやったらよいか決められますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (10) 他人が話しているところに、気軽に参加できますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (11) 相手から非難された時にも、それをうまく片付けることができますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (12) 仕事の上で、どのに問題があるかすぐに見つけることができますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (13) 自分の感情や気持ちを素直に表現できますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (14) あちこちから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (15) 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (16) 何か失敗した時に、すぐに謝ることができますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤
- (17) 周りの人たちが自分と違った考えを持っていても、うまくやっていけますか
..... ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤

(18) 仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じないほうですか

…… ① ② ③ ④ ⑤ ① ② ③ ④ ⑤

17. 下の質問にあなたはもっとも当てはまる回答番号に○をつけてください。

ほとんど いない	一 〜 二人 くらい	三 〜 五人 くらい	六 〜 十人 くらい	十 人 以上
-------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------

(1) よく連絡を取っている日本人友人・知人は何人いますか。

..... ① ② ③ ④ ⑤

(2) よく連絡を取っている同国の友人・知人は何人いますか。

..... ① ② ③ ④ ⑤

18. インターネットを利用していますか。

①はい ②いいえ

「はい」と答えた人は次の質問に教えてください

(1) インターネットで中国人留学生向けの掲示板を見ますか。

①よく見る ②たまに見る ③あまり見ない ④まったく見ない

(2) インターネットで中国人留学生向けのメーリングリストにいくつ参加しますか。

①3つ以上 ②2つ ③1つ ④参加していない

19. 次のような時に、あなたは、以下にあげた(1)から(6)の相手とどのようなコミュニケーションを取りますか。□の中にコミュニケーション手段(ア～オ)のうちから記入してください(二つ以内)。

コミュニケーション手段

ア. 電話 イ. メール ウ. 直接会う エ. 手紙 オ. ほとんどしない

寂しい時

- (1) 日本人の知人・友人
- (2) 市大の中国人留学生
- (3) 他大学の中国人留学生
- (4) 母国にいる知人・友人
- (5) 母国にいる家族
- (6) 市大の先生・指導教員

助けを求める時

- (1) 日本人の知人・友人
- (2) 市大の中国人留学生
- (3) 他大学の中国人留学生
- (4) 母国にいる知人・友人
- (5) 母国にいる家族
- (6) 市大の先生・指導教員

悩みがある時

- (1) 日本人の知人・友人
- (2) 市大の中国人留学生
- (3) 他大学の中国人留学生
- (4) 母国にいる知人・友人
- (5) 母国にいる家族
- (6) 市大の先生・指導教員

連絡のため

- (1) 日本人の知人・友人
- (2) 市大の中国人留学生
- (3) 他大学の中国人留学生
- (4) 母国にいる知人・友人
- (5) 母国にいる家族
- (6) 市大の先生・指導教員

20. 次の質問に最も当てはまる答えに○をつけてください。

(1) あなたは人生が面白いと思いますか

- ①非常に ②ある程度は ③あまりそうは思わない
④全くそう思わない

(2) 過去と比較して、現在の生活は

- ①とても幸せ ②まあまあ幸せ ③あまり幸せでない
④全く幸せでない

(3) ここ数年やってきたことを全体的に見て、あなたはどの程度幸せを感じていますか

①とても幸せ ②まあまあ幸せ ③あまり幸せでない

④全く幸せでない

(4) ものがとが思ったように進まない場合でも、あなたはその状況に適切に
対処できると思いますか

①だいていできる ②ときどきはできる ③ほとんどできない

④全くできない

(5) 危機的な状況（人生を狂わせるようなこと）に出会ったとき、自分が勇
気を持ってそれに立ち向かって解決していけるという自信がありますか

①非常に ②ある程度は ③あまり自信はない

④全く自信はない

(6) 今の調子でやっていけば、これから起きることにも対応できる自信があ
りますか

①非常に ②ある程度は ③あまり自信はない

④全く自信はない

(7) 期待通りの生活水準や社会的地位を手に入れたと思いますか

①非常に ②ある程度は ③あまりそうは思わない

④全くそうは思わない

(8) これまでどの程度成功したり出世したと感じていますか

①非常に ②まあまあ ③あまりうまくいっていない

④全くうまくいっていない

(9) 自分がやろうとしたことはやり遂げていますか

①ほとんどいつも ②ときどき ③ほとんどできていない

④全くできていない

(10) 自分の人生は退屈だとか面白くないと感じていますか

①非常に ②ある程度は ③あまり感じていない

④全く感じていない

(11) 将来のことが心配ですか

- ①非常に ②ある程度は ③あまり心配ではない
④全く心配ではない

(12) 自分の人生には意味がないと感じていますか

- ①非常に ②ある程度は ③あまり感じていない
④全く感じていない

21. 市大に次のような内容のセミナーをして欲しいですか。

	必要ない	どちらとも いえない	してほしい
(1) 日本人との付き合い方を知る	①	②	③
(2) 日本人に自分の文化を紹介する	①	②	③
(3) 心の健康について考える	①	②	③
(4) ノートの取り方など、勉強の仕方	①	②	③

他にしたいセミナーがあれば書いてください

22. 全体として、あなたは日本にきて良かったと思いますか。

100点満点で答えください () 点

23. この調査票のことばの理解度

- ①100%わかった ②90%わかった ③70から80%わかった
④わかったのは70%以下

ご協力ありがとうございました